〝ねずみ退治の秘訣〟

秋はチユウ族のふえる時期です

昨年につづいて今年も〝ねずみクン〟が発行されそうです。ねずみを駆除する最も大切なことは、①ねずみを特に台所などに入れないことです。あたり前のことですが、どこの家庭を見ても完全に守られているとはいえません。②つぎにねずみに食糧を与えないこと③巣をつくらせないことです。

そのためには納屋、倉庫などの整理整頓、清掃はもちろん屋内、屋外を通じて餌となるものを片付ける必要があります。

ねずみには、家ねずみと野ねずみの二種類がありますが、家ねずみが家の外へ、野ねずみも外から屋内へと広く活動しますから、ねずみの侵めない環境を作ることこそねずみ退治の根本です。ところが、一般の家庭で毒餌を作って喰べさせることがねずみ駆除の方法と信じられておられる方も多いようです。これも一つの方法ですが、薬剤か、ねずみ取り器を用いて一時的に駆除しても充分でなく、しばらくすると又もとのように増えています。そこで平素からねずみ駆除を頭において今までの生活習慣を変えて行くことが肝心です。一般に春と秋にはねずみが増えるといわれており、これから殊に農村では秋の収穫を前にして一斉にねずみ駆除を実施させると効果的です。

では、ねずみの出入を防ぎねずみを少なくする方法を簡単に紹介しましょう。

家屋小屋のコンクリートの下を穴をあけたり、部屋の壁に穴をあけたりして自由に活動しますが、この場合硝子の割れ、瀬戸物かけ、金属くずなどを入れて壁をぬるか、コンクリートを打って防ぐことです。

秋はねずみのふえる時期です、一般家庭はもちろん農家では、ねずみ退治に十分注意しましょう。

〝猟銃、空気銃の事故に注意〟

最近、生活の安定に伴い、空気銃や猟銃に対する国民の関心が高まり、いわゆるガンブームをまき起している。こうした風潮に刺戟されて新しく生れるハンターは、毎年急激にその数を増している。今年も十一月一日からの狩猟解禁を控えてこれらの猟銃などによりおこされる事故を未然に防ぐように心掛けられたいものである。

但、猟銃の増加自体は、広い山野に銃猟をたのしむ、いわば健全な娯楽の普及を

世の中は総べてプラスとマイナスでなりたっているように思われる。物質を極く小さく分けると分子になり、さらに小さく分けると原子になる。もう一段小さく分けると、プラスの電気を持ったものとマイナスの電気を持ったものとになる。…（電気を持たない中性のものもある）…今の科学ではもう一段小さく分ける方法がない。このプラスとマイナスが結びついた一番簡単なものは、アドバルンなどに入れられる軽い水素である。簡単だから軽い。最も複雑な結び付きは原子爆弾の原料となるウラニュウムである。水銀などもかなり複雑であるから重い。これらの物質はプラスが中心となりマイナスが外がわになってくっついている。この水素からウラニュウムまでの物質が種々雑多すこぶる複雑にむすび付くと、生命力が生れる。そしておす、めすができる。人間にも男と女がある。男がプラスならば女はマイナスである。磁石にもN・Sの二つの極がある。どちらも磁石としての性質は同じであるが方向はまったく反対である。

最初書いたように電気もプラスとマイナスがある。どちらも電気的性質は同じであるが方向が反対である。引力は今のところ一つしかない。我々地球上の引力はプラスであるかマイナスであるかわからない。若し地球と反対の物質すなはち、中心がマイナスの電気を持ち外側がプラスの電気を持った物質があれば、地球の引力と反対の方向のものとなりそうだ。…（最近実験的にこの物質がアメリカでたしかめられた）…昔から事件の影に女ありと言われるほどに、男と女の仲は関係が深い。とにかく男は女が好きであり、女は男が好きである。これは原理的にあたりまえである。プラスの電気とマイナスの電気は強く引き合うが、同じ電気は反ぱつする。人間はプラスとマイナスの電気を持った物質からできており、男がプラスなら女はマイナスであるからだ。

鉄空（ロケット）

男と女……プラスとマイナス

産業

自家飼料で生産費を安く

最近の農業は、いわゆる成長産業としての畜産、ことに酪農、養豚、牛の肥育などが目ざましい進展をみせています。これは家畜による生産物である牛乳及び乳製品や精肉または加工肉、あるいは卵及びその加工品が益々国民の嗜好に適し、消費も、ふえてきたことによるものと思われます。

そこで農家にとっては、国民が最も好み、そして多量に消費するものを今後生産することが、農家所得を増大することになるわけです。畜産で牛乳や、肉や、卵などを生産する場合、その生産をつとめて安くあげ、さらに質の良いものを生産して、国民に多量に供給することが大切です。

生産費を安くあげるためには、酪農では、酪農経営費の五二―五五％を占めている飼料費を節約することがまずなによりも重要なことです。

飼料費の内訳としては、自給と購入の二つがありますが、この自給分を、少くなくとも七五％位にもっていかないと、酪農の経営はなかなか容易でありません。しかもその自給分は、質の良い牧草あるいは飼料作物を主体としなければなりません。

すなわち大体乳牛の一年間の乳量が四千五百キロ位のものですと、牧草または飼料作物を生産として、年間約二万四千キロ位を与えると購入飼料代は、大体乳代の二六―二八％となり、乳代を一キロ当り三十円とすれば、この四千五百キロ分の十三万五千円の二六％にあたる約三万五千円となってこの酪農経営は安定することになります。

それで酪農の場合は、購入飼料代は、乳代の二五―三〇％以内にとどめるようにしなければなりませんが、乳量が一頭一年に四千五百キロの場合に、牧草なり、飼料作物の草類が年間一万五千キロ位ですと、その経営は黒字となりかねます。

このように牧草や飼料作物は、牛乳の生産費を安くあげるのにきわめて重要なものです。また、このように多量の青草類には、乳牛の成長や繁殖に必要なビタミンを含んでいますので仔牛の成長にも大変よく、繁殖障害などを起こす病気も少なくなり、受胎率も非常によくなってきます。

家畜と草

肥育牛や、肥育豚にも

(2)、空気銃による事故もほぼ同様の数字を示している。ただ空気銃の場合は、その性能から死亡に至った事故が猟銃に比べて少ないという程度にすぎない。過去二年間に死亡事故は四件起っているが、将来空気銃の成長にも大変よく、繁殖障害などを起こす病気も少なくなり、受胎率も非常によくなってきます。

肥育牛や、肥育豚にも

また最近は、生後十八カ月位で肉牛として仕上げて、肥育する方法が盛んに行なわれています。このような牛の肥育の場合も、生後十五、六カ月位までは、禾本科とマメ科の牧野を混播した牧場に放牧しておくと、大体七合―八合肉の栄養状態となります。そこで牧場から下げて、自分の家で百日余り肥育にかかると、飼料代も大変節約でき、肥育

示すもので、何等問題はない。しかし、猟銃、空気銃とともに弾丸を発射するものであるため、その使用取扱いなどに当っての不注意性から人畜を殺傷する危険が大きいので十分注意すること。

(2)、空気銃による事故もほぼ同様の数字を示している。ただ空気銃の場合は、その性能から死亡に至った事故が猟銃に比べて少ないという程度にすぎない。過去二年間に死亡事故は四件起っているが、将来空気銃にもさらに改良が加えられその性能及び危険度がますます高められることが予想されている。

(3)、過去二年間の猟銃事故についてその原因をみると取扱い上の不注意によるものが過半数を占めている。

(4)使用の現場において見通しを怠り、仕事中の農夫や歩行者などに命中、傷害を与えたもの。

(5)獲物を発見しあわてて装填、発射等を行ない暴発または、外れ弾を出し、自己または他人に傷害を負わせたもの。

(6)安全装置をせず携行中、こん倒その他の衝撃接触などにより暴発し、自己または他人を傷つけたもの。

などが大部分である。

(4)、未成年者には、狩猟法で狩猟免許を与えないことになっており、狩猟を禁じているものの、安易に空気銃によって狩猟しているものが多い。

狩猟期を前に十分注意してこのような事故をなくしたいものである。

昨年より高い

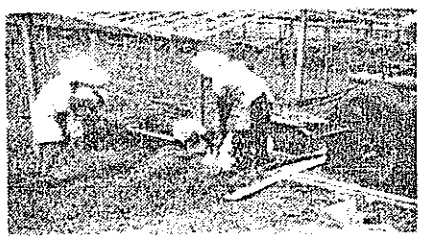
共同炊事の費用

本年の農繁期共同炊事は、一食平均二十五円五十三銭となった。

昨年は二十一円十銭だから四円四十三銭高いことになる。

これは期間中に魚類の値が高かったのと、一般の物価が上がったためといわれる。

加温園芸の準備にかかる



十市を中心とする市内の加温園芸地は、めっきりいそがしくなり始めた。

すでに臨時労働者を雇い入れたところもあり、ハウスの新設、補修が行なわれ、栽培床の仕上げやボイラーの設置にあわただしく明け暮れしており、

農家が、能率的な新しい技術を農業経営に導入したい時に、それが農業政策の上で必要な場合いままでは、その事情を問わず資金の一部を補助金として交付されていたが、農家の自主性を弱め、かえって補助金に依存する無責任な考え方になった嫌いがあり、新しい農業技術を導入しようとする農業者または、その組織する団体に普及奨励を必要とするものに対し、補助金と一般営農融資の中間にあたる無利子の資金を県が貸し付けることになっている。これを技術導入資金と呼んでいる。

技術導入資金の利用……

どういう時に借りられるか

この技術資金はどんな場合に貸付けられるか、それを具体的にいうと例えば水稲早期栽培の際の新品種の水稲種子、早期育苗のための温床紙の購入費が必要な場合など、肥料代のように慣行栽培に必要なものは対象にならないことになっている。これは恒久的なものではなく、対象となっている技術が普及され、一般化し農業者が自己資金や、一般営農資金で自主的にやれる段階にきたときはこの制度の対象からはずされることになっている。技術資金は、農業経営の安定と農業生産力の増強を目ざして、農業者が積極的に能率的な農業技術を導入したり、農業施設を改良、造成するのを促進するために設けられたものです。農業改良資金には二種類あり、一つは技術導入資金、他の一つは施設資金と呼ばれるものです。

農業改良資金

☆農業改良資金制度は三十一年に創設されたもので、農業経営の安定と農業生産力の増強を目ざして、農業者が積極的に能率的な農業技術を導入したり、農業施設を改良、造成するのを促進するために設けられたものです。農業改良資金には二種類あり、一つは技術導入資金、他の一つは施設資金と呼ばれるものです。

☆技術導入資金は、農業者が自己または他人を傷つけたもの。

☆安全装置をせず携行中、こん倒その他の衝撃接触などにより暴発し、自己または他人を傷つけたもの。

☆未成年者には、狩猟法で狩猟免許を与えないことになっており、狩猟を禁じているものの、安易に空気銃によって狩猟しているものが多い。

☆狩猟期を前に十分注意してこのような事故をなくしたいものである。

☆技術導入資金の貸付限度は、資金の種類毎に定める標準事業費の七割で、無利子となっている。この無利子ということはこの制度の最も大きな特色の一つで、補助金制度と融資制度の中間にある新しい制度である。

☆貸付の償還期間は、資金の種類毎に三年を越えない範囲で定められている。技術導入に必要な資金のため、固定施設の導入資金と比べ一件当りの金額も大きくなく、かつ、事業効果のわかるのも早く、持続期間も短期で速効的である点から、最長三年に抑えられている。

☆償還方法は償還期間が一年以内のものは一時払、その他償還期間が二年、三年のものは均等年賦償還の方法がとられている。

☆技術導入資金を借り入れることのできる者は、自興意慾の高い農業者または団体となっている。

☆貸付制度は……

☆貸付金の貸付限度は、資金の種類毎に定める標準事業費の七割で、無利子となっている。この制度の最も大きな特色の一つで、補助金制度と融資制度の中間にある新しい制度である。

☆貸付の償還期間は、資金の種類毎に三年を越えない範囲で定められている。技術導入に必要な資金のため、固定施設の導入資金と比べ一件当りの金額も大きくなく、かつ、事業効果のわかるのも早く、持続期間も短期で速効的である点から、最長三年に抑えられている。

☆償還の方法は償還期間が一年以内のものは一時払、その他償還期間が二年、三年のものは均等年賦償還の方法がとられている。

☆技術導入資金を借り入れることのできる者は、自興意慾の高い農業者または団体となっている。

県農業資料から

祭の日当はいくらになるか

作物を作って

米＝六六四円、牛乳＝五一〇円、マユ＝三六四円、イモ＝一五八円。

右のように、トップはやはり米となり、二座は当分ゆるがめようだ。

（以下三面上段へ続く）

技術導入資金の種類　貸付基準額　償還期間　申込期日

一、水稲の早期栽培を水田一ヘクタールに必要な資材を行う為に必要な資金	二六〇〇円	一年以内	自3.7 至3.6
二、耕土培養事業に水田又は畑地一ヘクタールの購入に必要な資金	二四〇〇円	秋落水田三年以内 アカホヤ二年以内	1.12 3.11
三、野菜又は草花の不大型の場合水時栽培料（通常の保護田又は畑一ヘクタールの購入費を加えて収穫後一ヘクタールに必要な資金）			36 10 31
四、乳牛を飼養するもの作付方式を転換時期以外の時に収穫後一ヘクタールの購入費を農産物の購入に必要な資金	五七〇〇〇円	元〇〇〇円	
五、土層を改良するため水田又は畑一ヘクタールに必要な資金	二〇〇〇円	二年以内	36 10 20
六、県有のトラクター水田又は畑一ヘクタールに農作業を行なうに必要な資金	四〇〇〇円	二年以内	36 10 31
七、桑園の改植を行う桑園一ヘクタールに必要な苗の購入に必要な資金	九〇〇〇円	三年以内	36 10 31